

平成 29 年度第 2 回東海市地域公共交通会議 会議録

- 会議の名称 平成 29 年度第 2 回東海市地域公共交通会議
- 開催日時 平成 29 年 10 月 13 日（金）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
- 開催場所 東海市役所 302 会議室（3 階）
- 出席委員 佐治錦三（会長）、渡邊元芳（副会長）、嶋田喜昭（議長）、
勝田厚秀、江尾国博、大脇美一、小野偉稔、小林治代、伊藤 勝、
片山雄介、秋山和子、福士直子、吉川 登、岡田英雄、富田弘敏、
脇田英生、桑原良隆、花田勝重
- 欠席委員 天野朝之、古田 寛、藤田重記、清 信裕、大里美栄子、
川口松廣、守山 睦、
- 事務局 総務部長、危機管理監、交通防犯課長、同主任、同主事
- 傍聴者の数 1 人
- 議題及び審議の概要
 - 1 開会のことば
 - 2 新任委員紹介
 - 3 会長あいさつ

（会長）

10 月 1 日より副市長に就任するとともにこの会議の会長を仰せつかりました佐治でございます。よろしくお願いいたします。

昨年 8 月より始まった循環バスの高齢者外出促進事業が 1 年をむかえた。今年度は毎月 1 万人を超える高齢者の方に利用していただいている一方で、ダイヤの遅延や、立って乗車される方が多いことで車内事故の危険性が高まっていることが課題となっている。これらの課題を解消するために、平成 31 年度にはダイヤやルートの見直しも行う予定である。本会議が中心となって議論を進めていことになると思われるため、積極的に建設的な意見をいただけると幸いである。

4 報告事項

- (1) 前回の会議録の確認について
- (2) 循環バスの利用状況等について

事務局による資料 2、資料 3 の説明

(議長)

循環バスの利用状況は過去最高となっているが、3割ほどが無料パスを利用しているので収益としてはさほど増えていない。

(委員)

利用者が増えている一番の要因としては無料パスであろうが、収入が減ったことをどうとらえるか。収益が減っているということに着目しすぎず、説明の際には高齢者の外出促進や健康増進のためであることも付け加えるとよい。

(議長)

市の政策として実施しているため、ある程度の赤字も予想はされていたものである。高齢者の医療費が削減されたりすると、事業の効果も見えてくるのではないか。

(委員)

公共性があるものなので、収入の増減だけでは語ることはできない。高齢者の健康増進という観点でいけば、停留所まで歩いていくというのも健康のためのひとつの方法だと思う。高齢者の健康増進については、東海市の色々な事業・環境を重ね合わせないといけない。らんらんバス単体ではなく福祉事業や介護事業との連携を考えるべきだろう。横の連携もとりつつ総合的に考えるのがよいのではないだろうか。

(事務局)

当初、らんらんバスは日常生活の足の確保に重点をおいてきた。現在では、高齢者の健康増進のための足としても利用が図られている。

全国的にもコミュニティバスの過渡期となっている。どのような目的でどのようにバスをはじめとする公共交通を利用するのか、今後、さまざまな議論を行っていきたい。

5 協議事項

(1) 東海市地域公共交通網形成計画の推進について

事務局による資料 4～8 の説明

(委員)

今後、平成 31 年度にダイヤ・ルートを改正するという事は、大変重要な

ものであると認識している。結果が資料5として掲載があるが、今回調査を行った便より朝夕の便の方が混雑しているのではないか。高齢者の利用としては、今回の便が多いためにこの便を調査したのか、それとも朝夕の便はそれほど混んでいないということなのか。

(事務局)

平成29年2月に早朝の便を既に調査している。それ以外の便で、利用者が多かった便を選定している。

(委員)

平成29年2月から現在まで時間も経っているので、朝夕のバスの混雑具合も変わっているのではないか。立っている人も多いと思うが、乗りこぼしはないのか。

(事務局)

座席が満席であることは把握しているが、車内全体の定員を上回っているという報告は受けていない。

(委員)

小型バスのラッピングが窓を覆っており暗いが、どうにかできないか。

(事務局)

小型バスの後部座席について、一定の明るさはあると考えている。また、外からの視線が気になる方が後部座席を利用していることもある。

(委員)

雨降りや曇りの日は、晴れの日の明るさと大分違いがある。乗る人の中には足元が見えにくく、つまずきそうになったという人もいた。

(委員)

窓がない方がよく、落ち着くという方もいる。

(事務局)

他の路線バスとの差別化の必要もあるため、現行のようなラッピングを行っている。いずれにしても、利用者アンケートを行う際には、現行のバスに関する意見も拾い上げていきたいと考えている。

(委員)

高齢者が無料になってたくさん乗っているのに、曲がり角や坂が危なくてバ

スに乗るのが怖いという意見もある。座席がもっとほしいという声をよく聞く。

(委員)

構造的な話で、すぐにはできないと思うが、車内の座席の配置等を変えることはできないか。座席の配置を替え、脇にスツールのような簡易な座席を増やせば、体を預けることができ、少し揺れたときでも危険度は低くなるのではないか。

(事務局)

現行のバスは車椅子に配慮したものである。

(委員)

座席にも保安基準がある。通常時の使用はもちろん、事故時も想定しており、座席同士の間隔や強度の問題もある。提案としてはとても有意義と思うが、法的には実現が難しいのかもしれない。

(議長)

いずれにせよ、立ち席の方が多く、今後対応を考えていかなければいけないのは事実である。車両の評価についても委員から指摘があったため、意見の收拾にも努めていくべきである。

(委員)

さきほど、バスは車椅子の利用を想定しているとのことであったが、実際には利用として頻度はどれほどか。

(事務局)

実際の人数は把握はしていないが、ゼロではない。

(委員)

バスの運転手の方がいれば、一日何人だったかは確実に覚えていらっしゃると思う。調査はせずとも、人数を報告していただくということができると思う。バスの検討材料になるのではないかと思う。

(委員)

病院の通院で、定期的に利用されている方はいるのは把握しているが、新規で乗られるという方はあまりいないようである。乗務員も把握はしており、報告は可能である。

(委員)

車椅子だけではなく、ベビーカーや押し車を利用している方が乗るときもあり、現行のバスは通路が広いため乗り降りがスムーズである印象がある。

(議長)

ベビーカーや押し車の場合はスロープを使うのか。

(委員)

使わないで乗る。車椅子で乗る場合はスロープを使用するが、そのために運転手に手伝ってもらい、発車までに時間がかかるため、車椅子を利用している方は、気が引けてバスに乗るのを遠慮する方もいるようである。

(委員)

バスの乗り方教室について、高齢者向けに乗り方教室を実施しているところもある。現在、東海市のバスには多くの高齢者が乗車しているため、高齢者向けに実施して、高齢者へ意見等を求めてもよいのではないか。

(事務局)

高齢者の利用が増えている中で、まだバスに乗ったことがない方も見えると思う。新たな利用者の掘り起こしという意味でも有意義であるため、事務局でも実施について検討していきたい。

(議長)

バスの乗り方教室は、市内全校すべて回ったか。

(事務局)

募集については市内全校にかけており、手をあげていただいた学校で実施している。また、実施していない学校へは市からも声をかけている。

(議長)

網計画の中では、学校だけではなく職場等も対象としているため、対象を広げて行ってほしいと思う。さらにはバスだけではなく市内の公共交通を使っただかくことも目標であるため、バスの乗り方教室以外でのモビリティマネジメントを検討していくのもよい。

また、最初の報告にもあったように、利用者は順調に伸び続けており、今後も利用者は増える見込みである。立ち席も多くなっていることから、なるべく早く対応をした方がよい。予定では平成31年度になっているが、早めることはできないのか。

(委員)

対応するとなると、便数を増やすということか。

(事務局)

増便というのも検討材料の一つである。対応の目的として、安全対策と利便性の確保がある。増便以外にも他の方法がないかを模索し、平成31年度中に何らかの対応を行いたいという旨である。

(委員)

ランニングコストを増やすのかイニシャルコストを増やすのかである。市が運営しているものなので、費用対効果を考える必要は必ずしもないのかもしれないが、常に税金が使われているので、どの部分にお金をかけるのかという検討が必要である。

また、現行の車両は、車椅子の利用についても視野に入れているということだが、利用数を把握していないのであれば、不要なところに税金がかかっていることになっている。今年度は200万ほどが赤字になっているが、利用が増えればこの数値も増えていくと思う。トータルで考えないといけないのではないか。

(会長)

様々な調査を行い、十分な期間をもって大きな変更をしていかざるをえないのが実状である。ただ、安全対策については、できることからしていきたい。見直しについては、次年度中になにかしらの結論を出せるようにしたい。

(委員)

どのような利用の方法が最もニーズがあるのか把握した上で走らせなければならぬ。安全が第一だが、高齢の方が増えて立ち席が多い現状で、乗務員も、少しブレーキを踏んだり乗車時間を長めにとるといった対応を行う余裕がない。

(議長)

早急に調査をして、改善を図っていきたいと思うので協力をお願いしたい。

<議長による承認採決>

(一同)

承認

(2) 平成30年度市のイベント時の循環バスの無料運行について

事務局による資料9の説明

(議長)

無料で運行をしても、あまり増加が見込めないということは、らんらんバスには固定客が多いという見方ができると思う。

(委員)

無料運行について、実施前に告知はしているのか。

(事務局)

広報等で周知は行っている。

(委員)

無料運行を見送り、利用者から再度要望があれば再開してもよいのではないかと思う。

(委員)

イベント時のシャトルバスの利用者はかなりいるのか。また、無料運行しているのか。

(事務局)

シャトルバスは無料である。利用者数については把握していないが多くの方が利用していることは見受けられる。運行の間隔も短いので利用しやすいようである。

もともとは市の大きなイベントの機会を利用して、初めて乗る方にもらんらんバスを知っていただく目的があった。現在は十分周知が図られていると考えているので、事務局としては、平成30年度の実施については見送ると考えているところで、提案したい。

(会長)

現在の状況としては、今のお話のとおりであるが、循環バス全体として平成31年度に見直しを行うということであれば、無料運行についても調査期間とする方がよいのではないだろうか。

(議長)

それでは、再検討することをお認めいただくということによろしいか。

<議長による承認採決>

(一同)

6 その他

事務局より第3回の開催について案内

7 閉会のことば